

講義名	社会調査演習 (社会調査士科目 履修条件有)			授業形態	
担当教員	桑原 桃音 / 栗田 真樹		開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3 時限	
	単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード SSM350

主題と概要

【授業内容】
 社会調査法のうち(1)質問紙調査法と(2)フィールドワークの方法を用いながら地域で執り行われる祭事に関する調査演習を行なう。具体的な対象としては、人々の消費の場であり、生活空間でもある商店街で執り行われる「祭事」を、特に「地蔵講・地藏祭・地藏盆」を取り上げる予定である。
 演習1では、演習1を受けて、2つのコース(質問紙調査もしくはフィールドワーク)ごとに、報告書の作成を目指す。統計調査においては、データ解析のデザイン(基礎的なデータ解析法)、実査の方法、実査・データ・コーディング、データ・エディティング、SPSSによるデータ解析、報告書の作成といった一連の統計調査法の手順・技法を、実践的に修得することを目的とする。フィールドワークにおいては、演習1において概略決定された流れに則って調査を実施し、明らかとなった調査内容を分析・解釈し、報告書にまとめ、それを調査対象となった集団ないし個人にフィードバックするまでを行う。
 【調査のテーマ】商店街もしくは、商店街がある地域の祭事、祭事の概要、問題点、改善策

到達目標

・「社会調査演習1/11」をもとに報告書を作成する。

提出課題

演習11の終了時に報告書の作成を義務付ける。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

授業中に講評・解説します。

評価の基準

出席・平常課題・グループへの参加状況等を総合して評価する。

履修にあたっての注意・助言他

社会調査士科目の必修科目であるので、社会調査士資格希望者はこの科目とともに、同年度開講の「社会調査演習1」も必ず受講すること。なお「社会調査演習1」の単位を修得していなければ「社会調査演習11」は履修できない。

授業時間外に演習活動の時間を設定する可能性があるため、その点を踏まえて履修すること。

履修希望者は上記の条件を満たしたうえで申し込み手続を行うこと。

8/22、23、24、25の本調査に参加できること(調査地によって日程は異なる)。また、追加調査を行う場合がある。

教科書

・ 特には指定しない。

参考図書

その他

随時配布、紹介する。

授業計画

第1回 演習のイントロダクション
 予備内容、復習内容

 第2回 社会調査の実査 具体的方法と過程の確定
 予備内容、復習内容

 第3回 データ・コーディング 調査対象の確定と交渉への道筋
 予備内容、復習内容

 第4回 データ・エディティング 文献研究(1)
 予備内容、復習内容

 第5回 データ入力 文献研究(2)
 予備内容、復習内容

 第6回 単純集計 フィールドワークプラン(1)
 予備内容、復習内容

 第7回 クロス集計1 フィールドワークプラン(2)
 予備内容、復習内容

 第8回 クロス集計2 調査対象者との接触交渉
 予備内容、復習内容

 第9回 ピアソンの積率相関係数 フィールドワーク(1)
 予備内容、復習内容

 第10回 尺度構成法1 フィールドワーク(2)
 予備内容、復習内容

 第11回 尺度構成法2 フィールドワーク(3)
 予備内容、復習内容

 第12回 多変量解析1 結果の吟味
 予備内容、復習内容

 第13回 多変量解析2 報告書の作成(1)
 予備内容、復習内容

 第14回 報告書の作成1 報告書の作成(2)
 予備内容、復習内容

 第15回 報告書の作成2 調査対象者への報告
 予備内容、復習内容

 予備内容・調査結果の発表準備(3時間)
 復習内容・演習時間外の教員の指摘・コメントをもとに修正する(1時間)。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> ア: PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ: グループワーク
<input type="radio"/> オ: プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

・社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
 ・統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。
 以上の学部のディプロマポリシーを達成するための調査能力を、演習授業を通して修得することを旨とします。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

Teams等を用いて連絡、授業資料の共有、コメントをします。
 Teamsを用いて授業時間外に調査前後のミーティングを行うことがあります。
 Teamsでミーティングではスマートフォンで対応できることを基本としますが、カメラ付きのPC、タブレットの利用を推奨します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり(桑原・栗田は「専門社会調査士」資格を有している。これらの経験に基づいて社会調査演習を指導します)。

備考